

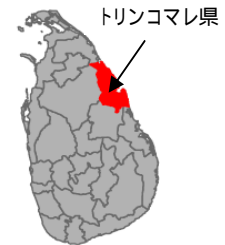
## 東部州トリンコマレ県帰還民生計支援

- ピースウィンズ・ジャパンの活動 -

2012年4月

在スリランカ日本国大使館

スリランカでは、2009年5月に国内紛争が終わり、もうすぐ3年が過ぎようとしています。東部州トリンコマレ県は、紛争の被害を最も受けた地域の一つです。10万人以上が家屋や生計手段を失い、避難民キャンプや他県への避難を余儀なくされました。現在までに、多くの住民が帰還しましたが、生活の再建は容易ではなく、未だ多くの課題が残されています。



ピースウィンズ・ジャパンは、2009年より開始された東部州帰還民支援(ジャパン・プラットフォーム資金)を経て、2011年より日本政府が実施する「日本NGO連携無償資金協力」の資金協力を受けて、トリンコマレ県内3郡の再定住地域における農業支援(農業用ため池修復6ヶ所と農業研修実施)と酪農支援(ミルク工場への車輛・機材供与と酪農研修実施)を行いました。

### 農業・酪農の再開

ため池修復を行った村の一つ、ゴマランカダウェラ郡パッドガマ村は、41世帯が住む小さな村です。2008年、約24年間の避難生活を終えて帰還した人々が目にしたのは、荒れ果てたため池と農地の姿でした。人々は農業活動の再開を試みたものの、ため池やその水門、水路、堤防などの修復が行われない限り、農地には水が流れず、農作物を栽培することができません。2011年3月、村の復興を目指し、ピースウィンズ・ジャパンと住民たちによるため池修復の一大事業が開始されました。「私がこの修復作業のスーパーバイザー(監督)に任命されたんだ。」住民の1人、シリセーナさんは、明るくやる気に満ちた表情で自己紹介をしてくれました。「ピースウィンズ・ジャパンと日本政府には本当に感謝している。これまで資金集めのために、何十通も手紙を書いて、あちこちに送ったんだ。手紙なんて妻にさえ書いたことがなかったのに。でも何年待っても誰からも返事が来なかった。この日本の支援は、長い間待ってやっと得られた支援なんだ。本当に嬉しいよ。」シリセーナさんの言葉に、周りの人々も大きく頷きました。支援が受けられた喜びを表現するかのよう、皆、熱心に修復作業に参加してくれました。



修復作業に参加した住民たち



パッドガマため池修復後の様子  
(c)ピースウィンズ・ジャパン

ため池が修復され、同辺の村では農業研修も始まりました。チェナイユール村に帰還したナハリンガムさんは、この研修の参加者の1人です。ナハリンガムさん一家は、代々農業で生計を立ててきまし

たが、戦火を逃れるために何度も繰り返した避難生活の末、多くの農作物を失いました。また、農地も荒れ果ててしまったため、帰還後は、なかなか思うように農業活動ができません。この農業研修では、農業局職員を講師に迎え、ため池を利用した稲作や畑作方法を含む、多くの新しい農業技術が紹介されました。その結果、多くの村で米の二期作が可能となり、さらに収穫期の合間に落花生、ケツルアズキ(マメ科)等の栽培・収穫も可能になりました。

ナハリンガムさんも、ケツルアズキの作付けを早速行いました。「ケツルアズキ栽培は人生初めての挑戦だよ。このプロジェクトのおかげで米の二期作に加え、新たな作物栽培もできるようになった。収穫も収入もきっと大きく伸びる。頑張るよ。」と嬉しそうに話してくれました。



葉の病虫害について説明する農業局職員

ムトゥール郡で行った酪農支援も、大きな効果を発揮し始めました。ピースウィンズ・ジャパンは、同郡の150の酪農世帯を支える公営ミルク工場へ車輛2台と均質機1台を供与するとともに、周辺の酪農家52名に対する酪農研修も実施しました。この研修に参加したタニハーサラムさんは、以前は昔ながらの酪農方法を、地域の中で見よう見まねで学んでいました。本格的な研修を受けるのは今回が初めてです。「牛舎を使って水と牧草を牛にやり、一日2回搾乳するという方法で、牛乳の質と量がぐっとあがることを学んだよ」研修で学んだことを誇らしそうに話してくれました。タニハーサラムさんはこれを実践すべく、現在、銀行にローンを組み、牛舎建設の準備を始めています。



プロジェクトで供与したトラック



(c)ピースウィンズ・ジャパン  
酪農研修の様子

### 一日も早い復興を目指して

紛争中、避難民キャンプや親戚・友人の家に身を寄せていた多くの人々が、肩身の狭い思いをしながら、日雇い労働で収入を得つつ、何とか生活をつないできました。いつか生まれ故郷や友人・知人が多くいる自分の村に戻りたい、(土地などの)財産を取り戻したいという強い思いがあったからこそ、長く辛い避難生活を乗り越えられたと言う人も少なくありません。その夢が実現し、その後ピースウィンズ・ジャパンの活動を通じて紛争前と同じ生計活動を再開できたことは、人々にとって何にも代え難い喜びとなっています。また、村には戦闘や検問もなくなり、危険を感じることなく毎日仕事に出かけることができるようになりました。人々は平和の訪れを実感しつつ、一日も早い復興を目指し、日々努力を続けています。